

丸井織物（石川県中能登町） 衣料、産業資材織物の製造販売。1937年、グループ企業の宮本織物が創業し、56年に丸井織物が設立した。2016年12月期の売上高は約81億8千万円。

みやもと・とおる 中能登町（旧鹿島町）生まれ。1975年慶大工学部卒。日産自動車勤務後、77年丸井織物入社。専務を経て99年から現職。東レ合繊クラスター会長。64歳。

丸井織物 宮本徹社長

能登のどかな田園風景の中で80年間、布を織り続けてきた。そんな会社が、

昨年、ITを切り口にした企業改革を始めた。

「黒船が来たような感じだったかもね」

生産効率を上げるため、モノをインターネットでつなぐ「IoT」を導入しただけでなく、スマートフォン

の無料通信アプリ「LINE」で使うスタンプ画像の制作も手掛けるようになった。

一見すると繊維と何の関係もない。当初は社員も戸惑っていたが、2年たち、ようやく理解が深まってきた。何事も慣れるまでには時間がかかる。

業態に革新を

目指すのは業態に革新をもたらすことだ。ITを道具として使うだけではなく、繊維と融合した新しいビジネスモデルを能登から

「言える化」で個性発揮



自社素材を使ったお揃いのユニホームで出社する
—中能登町の本社

繊維とITつなぐ

世界へと発信していき

い。そんな思いを込めたのが、昨年11月に立ち上げた

自社素材の新ブランド「ノトクオリティー」である。心地よさを追求した機能性

素材は、インターネットを含めた情報発信に努めた結果、当初予定の2倍を超える注文が舞い込んだ。

糸と染めの中間に位置する「川中」の立場としては、川上にも川下にもIT化の

流れが広まれば、かなり面白い。

「北陸の繊維産地がいつかITでつながったら、日本にしかできない新たな業態が生まれるかもしれないよ」

ネット社会の恩恵だろう

か、最近では全国から入社希望者が集まるようになってきた。これまでは地元出身者を多く採っていたが、最近では北海道から沖縄まで全国各地から採用を進めている。

会社は動物園

「会社は動物園みたいなもんや」。多種多様な動物が集まる動物園にわくわくするのと同じで、さまざまな個性が集まってこそ会社は良くなると思う。

ここ数年で社内の雰囲気は大きく変わった。IoTの導入で製造工程を「見える化」したことが大きい

デジタル面だけでなく、アナログ面でも変化を求めたい。

3年ほど前、若手社員にコミュニケーション力や論理的思考力を身に付けさせるための研修を始めた。「何でも言える会社になりたいですよ」

「見える化」に加えて「言える化」を実現できれば、社員が個性を発揮するために欠かせない「議論できる風土」が整うはずだ。

市況は厳しい状態が続いている。国内では相変わらず衣料向けが伸び悩んでいる。英国のEU離脱やトランプ氏の米大統領就任など予想もしなかったことが世界で起こり、今年は国内外の環境も大きく変わりそうだが、目標ははっきりしている。2020年までに売上高200億円を達成することだ。

繊維とIT、今はまだ点と点に過ぎない。この二つをつなげてこそ、新たな「丸井ならではの」個性が生まれると信じている。